

高齢者(満65歳以上)

インフルエンザ予防接種を受けられる方へ

1 予防接種と副反応

インフルエンザは、普通のかぜと比べて高い発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などの全身症状が強く、高齢の方や基礎疾患（心疾患、肺疾患、腎疾患など）のある方は、重症化しやすい傾向があります。インフルエンザの予防接種は、インフルエンザの発病防止や重症な合併症を予防する効果があります。

現在使用されているワクチンは、病原性をなくした不活化ワクチンで副反応の頻度は少ないものですが、人間の体の性質は一人一人違いますので、副反応のする人もでてきます。体調などについて医師とよく相談し、納得して予防接種を受けてください。

【副反応】

一般的に反応は軽微です。接種局所の反応が主であり、発赤、腫脹、疼痛をみとめることもありますが、2～3日で消失します。発熱、頭痛、悪寒、倦怠感、嘔吐などもまれに起こります。極めてまれですが、接種後数日から2週間以内に急性散在性脳脊髄炎（発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害等）があらわれる場合があります、死亡も発生します。

また、ワクチンの製造過程で孵化鶏卵を使用していますので、卵アレルギーの副反応の可能性がありますが、実際にはごくまれです。

医師と相談の結果、予防接種を受けるかどうかについての確認のため、本人のサインが必要となりますので、ご協力をお願いします。

2 予防接種を受けることができない人

① 明らかに発熱のある人

一般的に体温が37.5℃を超える場合をさします。

② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人

急性の病気で薬を飲む必要があるような人は、その後の病気の変化がわかりませんので、その日は見合わせるのが原則です。

③ ワクチンの成分によってアナフィラキシーショックを起こしたことがある人

「アナフィラキシー」とは、通常、接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息がくるしいなどの症状に続き、ショック状態になるような激しい全身反応のことです。

④ その他、医師が不適当な状態と判断した場合。

3 予防接種を受けたあとの一般的な注意

① 予防接種を受けた後30分間は、医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。

急な副反応は、この間に起こることがあります。

② 接種後2～3日は副反応の出現に注意しましょう。

③ 入浴は差し支えありませんが、注射をした部位をこすらないようにしましょう。

④ 接種当日は、いつものとおりの生活で構いませんが、激しい運動は避けましょう。

4 予防接種費用

① 自己負担額は、**1,500円**です。（医療機関の窓口でお支払い下さい。）

接種対象者の方で生活保護を受けている方・中国残留邦人等及び公害病認定患者の方は自己負担の必要はありませんので、医療機関で受給証・本人確認書及び公害医療手帳を提示の上、予診票の指定欄（氏名の横）に受給証番号を記入してください。

尼崎市保健所 感染症対策担当課 (TEL: 06-4869-3062 FAX: 06-4869-3049)